

創刊の辞

創刊に寄せて

「publish or perish」という言葉があります。分野を問わず、アメリカの研究者の間では有名な言葉です。その意味は、（研究成果を）論文として発表しなければ、（研究者として）生きてゆくことはできない、ということです。厳しい言葉ですが、研究資金獲得がなければ、研究を続けてゆくことができないアメリカの厳しさを象徴している言葉だと思います。アメリカほどではありませんが、日本の研究者にもこの言葉は当てはまります。

研究論文を発表することには、上記のような研究者が生きてゆくための意味もありますが、本来は研究成果を広く社会に提示し、その成果を万人で共有するための手段です。分野によらず、研究者が研究者として存在できるのは、調査・研究によって新知見を獲得し、それを社会に還元することが期待されているからです。

大学院の修士、博士課程に在学されている学生の研究成果は、個人の努力の結果であると同時に、社会に還元することが期待される社会全体の知的財産でもあるのです。本紀要は、お茶の水女子大学の児童・保育学コース（ならびに領域）に在籍する学生さんが、研究の成果を広く社会に伝えてゆく窓口として創刊されました。生まれたばかりの小さな雑誌ですが、研究成果を社会に発信してゆくという機能を十分に備えています。

冒頭に論文発表の厳しい現実について述べましたが、本誌は「publish or perish」の手段としてではなく、むしろフランスのラ・ルース百科事典のような役割を果たすことが似合っていると思います。ラ・ルース百科事典の表紙には、タンポポの綿毛を吹いて飛ばしている女性の姿がえがかれており、「Je sème a tout vent」という言葉が添えられています。

百科事典を通じて、万人に知識を届けようという編纂者の気持ちを「私はあらゆる風に種を撒く」という言葉に託しているのです。

皆さんの研究成果が、タンポポの綿毛のように、本紀要を通じて社会全体に広がってゆくことを祈念します。

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
保育・児童学コース（領域）主任
榊原 洋一